

昨年一年間の最大関心事といえば、国際的には地球温暖化とエネルギー問題、国内では、肝炎訴訟の行方だったと思います。

薬害肝炎訴訟とは、一九六九年から九四年頃までに、出産や手術の際に使われた止血剤によってC型肝炎に感染した被害者が、国と製薬会社に対して裁判を起し救済を求めてきたことを言います。

これに関して、厚生労働省は「医薬品は効能と副作用を併せ持つている。発生責任を認めなければならない」とし、副作



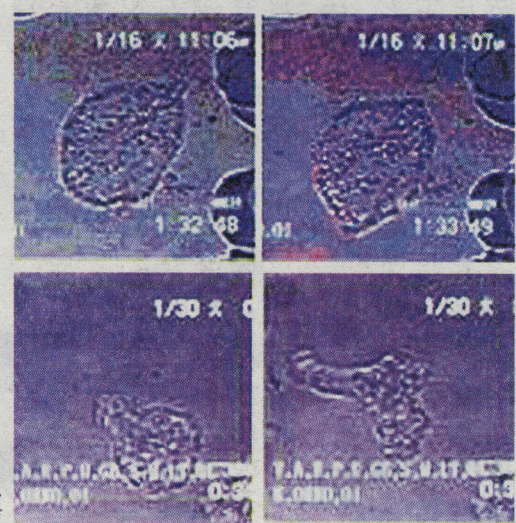
用のある医薬品は造れなくなる」とし、国の責任を認めませんでし

得なかつた責任を認

自然医学総合研究所所長

大沼 善誉

自然治癒を科学する



動きの悪い白血球の1分間の動き(01年1月16日)。下は活発で健全な白血球の24秒間の動き(01年1月30日)

がんの盲点 ②

(文春文庫刊)で、抗がん剤の90%は無意味治療中、死亡者が出る

よりますと、経口抗がん剤は効果が低く、患者の同意がないまま治験が行われ、その結果患者は次々と亡くなっている

がん患者の死亡者は毎年三十二万人を超え増え続けていると考

えられています。事実、進行性の胃がんの場合でも

抗がん剤を使用しなかつたグループでは大差がなく、抗がん剤の有効性には疑問が残ります。

岐阜県在住の七〇代の女性は、二十二年前交通事故に遭い、岐阜大学病院に入院、輸血

によってC型肝炎に感染し、身障者として認められ、感染症や重篤な貧血が誘発されるため、睡眠薬や安定剤などの

服用を続けた後に大腸がんになり、余命二カ月に診断され、さまざま民間医療を試みましたが改善せず、二〇〇一年一月十三日に当院を訪れました。

食事に有機食材を使用し、骨盤など全身の歪みを改善したところ、六カ月後には抗体が生まれ、一年後には大腸がんの症状も安定し、日常生活ができるまで回復。七年を経

た現在も、元気に暮らしています。白血球が元気になることで細菌や不要な細胞が掃除される他、ホルモンや神経などが安定し体調が回復するからです。

がんや難病で自然療法を探してお困りの方。一度ご相談ください。(名譽医学博士・生化学博士・平成11年度国際文化功労賞受賞・掲載します)

ナチュラルケアセンター(院長) (次回は2月7日)

講演会のお知らせ

テーマ(1) 午前 「自然治癒の原理・そうじ屋細胞が病気を治す」
 講師：大沼善誉 自然医学総合研究所所長 ナチュラルケアセンター院長 平成11年度社会文化功労賞受賞 生化学博士・名譽医学博士
 テーマ(2) 午前 「がんを克服するために」
 講師：酒向猛 元岐阜県立多治見病院外科学部長 医学博士
 テーマ(3) 午後 実技指導及び、無料相談と体験
 開催日：1月20日(日) 名古屋市東区ウィルあいち
 時間：10時～16時30分
 会費：会員無料、非会員1000円
 主催：民間非営利団体 国際自然免疫学会
 共催：自然医学総合研究所
 申し込み：自然医学総合研究所
 TEL 052・801・7063まで

問い合わせ 電話 052・801・7063
 Eメール yoshinori@nrt.ne.jp
 URL http://www.nrt.ne.jp